

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	上智短期大学	整理番号	2-5-005
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域の外国籍市民への学習支援活動の推進 －学生主体の家庭教師ボランティアの展開モデル－		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	羽場 勝子		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、1988 年 5 月、地域の NGO による「難民支援」のための日本語教室に参加した学生有志 10 名の発案でスタートした。爾来 16 年間、近隣の行政、地域の NGO 等と連絡・連携を取り合い、地域の外国籍市民の学習支援活動を担ってきた。本取組は、地域に根ざした長年の活動であり、大学と地域社会の連携の展開モデルであり、本学の教育理念を体現する草の根的实践活動である。</p> <p>本学の位置する神奈川県秦野市周辺には、外国籍市民が多く居住しているが、言語や文化の壁に遮られ日本社会の中で孤立しがちである。このような状況下で、学生ボランティアは、外国籍市民の子供に日本語、英語、他の教科の学習支援を行うとともに、異文化の中で戸惑う家族の相談相手として多面的に活動している。これまで 930 名の学生がかかわり、対象となった外国籍市民は 635 名。現在、全学生の 20 パーセント以上が自主的に参加する本学最大の課外活動である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、外国人労働者などが働く神奈川県秦野市に所在の上智短大の地域貢献活動です。キリスト教ヒューマニズム、国際性、言語教育の 3 点を教育理念とする上智短大にとって、この取組は実に相応しいと思われまます。</p> <p>現在、多くの外国籍市民は、慣れない外国で生活するなか様々な困難に遭遇して、特に子弟の教育は言語障壁もあり、成人にあっては企業内教育も不十分で、家庭教師ボランティアによる学習支援が強く求められます。上智短大は、当初学生個々人の発意によって始まった「難民支援」を、学生直属組織・キャンパスミニストリーをセンターとして教員・学生・OB OG の参加によって「地域内外国籍市民への学習支援・交流支援」を 15 年間にわたり継続し、その間係った学生総数 890 名、サポートされた外国籍市民は 125 世帯、215 名に及びます。携わった学生らの人間的成長、ヒューマニズムの深化が認められ、教育上の効果も極めて大きいです。将来展望もきちんとしており、実績、効果、社会的意義のいずれからも高く評価されます。</p>			